新年の鬼王会長ご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、２０２２年２月から続くロシアのウクライナ侵攻や２０２３年１０月からのパレスチナ地区での紛争など地政学的な混乱が続きました。その影響でエネルギーや原材料価格の高騰が続く低い経済成長の下での高インフレに見舞われた年でした。

２０２４年の世界景気は、中国の景気の低迷が長期化し、欧州製造業は減速、底堅さを維持している米国景気は昨年１１月の大統領選の結果によって見通しが困難な状況に陥っております。また日本国内においては、物価高や人手不足、住宅着工の低迷や自動車の減産といったさまざまな逆風にさらされました。そのような中、製造業においては昨年後半には各分野での在庫調整が底を打ったとの声が聞かれるものの、そこから立ち上がった業種が見つからない、もどかしさを感じる年でありました。一方、サービス業においては、過去最高の訪日客によるインバウンド消費の拡大や旅行・外食・スポーツ観戦などの「事（コト）消費」も活況に転じました。しかしながら、それら人の動きに続く「物（モノ）消費」は期待通りに進まず、「コロナ期よりも悪い」との声に表される様に、回復が先送りになった年でありました。

伸銅品の市場では、底堅い需要を保った自動車に加え、エアコンの在庫調整の終了も見られました。一方で、デジタル機器や家電は、中国景気の低迷から停滞しました。国内の建設や住宅需要も長らく低迷しており、その結果、２０２４年暦年の伸銅品生産は、主要品種で前年を下回るものもあり、２０２３年度並みの６４万トン程度となる見通しです。

２０２５年の伸銅品の需要についてですが、

・「板条製品」は、昨年に続いて世界的な自動車生産台数の増加に加え、ハイブリッド車への回帰と CASE の更なる進行で、端子コネクタ材の回復は継続すると見られます。また、半導体材料は、昨年後半から回復しているスマートフォンや PC 需要、近年盛り上がっているデータセンターや通信の高速化、ＡＩの本格的な普及に伴う需要が徐々に拡大してくると見られ、２０２５年度からの回復が見込まれます。

・「銅管」については、引き続きルームエアコンの需要拡大と共に、外出機会の拡大による商業施設などインフラにおけるパッケージエアコンの据え付け需要が期待されます。
・「黄銅棒」については、建設現場での人手不足や、低位に推移する住宅着工件数の影響もあり、再開発案件とリフォームでの需要など、現状レベルに若干の回復が期待されます。

日本伸銅協会が昨年秋にまとめました中期需要見通しにおいては、「板条製品分野」では先ほど述べたようなニーズから、一貫した伸びを見込んでいるほか、「銅管」での買換え需要や「黄銅棒」を含むインフラ整備に伴う需要の増加を見込んでおります。

とはいえ、まだ力強さに欠ける国内外の景気など不安要素が残ってはおりますが、銅の特性を活かした高機能高性能の分野の成長なくしては、今後の世界的なデジタル化、脱炭素化は成立せず、これらの動きは確実性を増してきております。

以上から「伸銅品全体」は製造業全体と連動して緩やかに成長すると予想しております。

こうした中、２０５０年のカーボンニュートラルに向けて、地球環境問題にも取り組んでいくことが益々重要となってきています。

日本伸銅協会では、カーボンニュートラル行動計画におけるフォローアップを行い、2023 年度実績は、CO2 排出量 50.8 万トン-CO2 であり、目標に対する進捗率は 72%でありました。日本伸銅協会としては、引き続き会員企業の目標達成に向けた努力を後押ししていく所存です。

かねてから銅はリサイクル性の優等生と言われておりますが、今後銅資源の需要が拡大することが予測される中、これまで以上に国内循環システムの構築が重要となると考えております。 特に、製錬に戻すのではなく伸銅工程へ戻す循環が重要と考えており、このため、伸銅協会では未利用リサイクル材料に関する調査に取り組んでいます。

また、銅くずの海外輸出に関しては、長年に亘り課題でありましたが、HS コードの細分化を経済産業省にお願いし、実現をしていただきました。これによって、国内で利用可能な銅くずの輸出状況を把握することができます。

さらに伸銅品のリサイクル率については、昨年１１月に、伸銅業におけるリサイクル率の考え方を整理し、リサイクル率を算出するための計算式を定義し、協会独自の指針として取りまとめました。今年からは、カーボン・フット・プリントの計算式についても定義する作業を行うこととしております。

伸銅業に係る我々が、社会や顧客に対してこれらの問題に適切に対応していることを示すことが重要となりますので、引き続き皆様のご協力を頂きながら、しっかり対応を行っていきたいと思っております。

一方で、昨年１１月には　設備保全担当者ネットワークの会をキックオフいたしました。伸銅業は高経年設備を多く有しており、社内の設備保全のプロが減少していく中で、業界をあげて効率的・効果的な設備保全に取組める仕組み作りが急務となっておりました。今後、設備保全ノウハウや関連する情報の共有が気軽にできるネットワーク化をめざして活動していきます。これによって、国内伸銅業の更なる基盤強化につながることを期待しております。

伸銅品を取り巻く環境は、依然にも増して製品の軽薄短小化の進展、中国をはじめ近隣の伸銅業の技術水準の向上、原料高騰による他素材との競合等厳しい状況であります。これらの課題に対し、銅の持っている特性を活かし、優位性を高く認めてもらうことが重要なことであると認識しております。
そのため、日本伸銅協会では「日本銅学会」の支援を通じて、銅の優位性を高めるための産学連携の研究を一層推進してまいります。

また、「物流の２０２４年問題」については、一昨年末に経済産業省に提出した「伸銅業界における物流の適正化・生産性向上に向けた自主行動計画」を踏まえて、昨年の関連法改正にもしっかりと対応をするとともに、引き継き、業界としても物流事情を注視していくつもりです。

一方で昨年１１月には、日本電線工業会と連名で　銅製品の盗難対策強化に対する要望書を経済産業省及び警察庁へ提出させていただきました。

今後も協会としては、経済産業省や政府関係機関に政策立案に役立つ情報を提供させて頂きますので、ご対応をよろしくお願いいたします。

新型コロナ以降、我々伸銅品を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、更なる変化も予期されるところです。このような変化にも対応し、先ほどの課題にも対応をしていくべく伸銅品の価値(VALUE)をいかに向上させるかが重要であります。
この実現のためにも、日本銅センターとの連携も含め、伸銅品の認知度をさらに広げていくことが重要であり、我が国の伸銅品の特徴である「高性能かつ高品質で、魅力のある製品」を引き続き提供していくことに他なりません。
そのためには、流通業界及びリサイクル業界を初めとする関係業界のご理解とご協力を頂くと共に、関係官庁のご支援が必要なことは言うまでもありません。
引き続き皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

今年の干支は十干十二支（じっかんじゅうにし）で言うところの「乙巳（きのと・み)」

です。「乙」は、困難があっても紆余曲折しながら進むこと、「巳」は蛇のイメージから「再生と変化」を意味するため、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表していると言われています。

　伸銅業界も一昨年からの業況の回復が徐々に行われてきていますので、需要が安定して、安定した成長に繋がることを祈念しております。